

事業報告書

令和5年度

社会福祉法人 福鳳会

社会福祉法人福鳳会

概況及び基本理念

<はじめに>

福鳳会は、基本理念の下、ご高齢者やご家族が憂いなく安心して暮らせる地域づくりに貢献していくための基本的な取り組みとして、

第一に、「敬老愛護」の基本的精神に基づく高質のサービス提供に一層努めていく。

第二に、質の高いサービスを提供する原資を得るために経営の安定化に取り組んでいく。

第三に、職員が安心して働ける環境づくりに努めていく。

第四に、制度や地域のニーズ変化に対応した高齢者サービスについて不断の研究を行い、地域包括ケアへの寄与に努めていく。

これらの取り組みを着実に進めるとともに、令和5年度は、4つの具体的な柱を重点に取り組んだ。

令和5年度の具体的な柱の一つ目は、「(1)令和4年度に認識し新たに対応を迫られた課題」への対応である。二つ目以下は、5年度事業計画で設定した「(2)敬老愛護、お客さまファーストと安定した経営の両立」「(3)職員の処遇改善と職場環境の改善」「(4)既存本館及び新館改修事業の終了とその後の取り組み」であり、この3項目は、法人の基本的な方針を踏まえた基盤的な取り組みとして、これまでの観点を維持して進めた。

<令和4年度に認識し新たに対応を迫られた課題>

前年度（令和4年度）には、新たに以下の4つの項目を原因として、収入が大幅に減少あるいは支出が想定以上に増加したことで、当初見込まれた赤字幅を大きく超える赤字となった。

なお、これらは突発的に発生した問題への対応ではあるものの、一過性のものとして捉えるのではなく、持続的に対策を講じていくべきものとして対応してきた。

（ア）新型コロナウイルス感染症による間接的影響：デイ利用者の利用手控え

（イ）新型コロナウイルス感染症の侵入による直接的影響：利用休止・中断

（ウ）特別養護老人ホーム稼働率の従来にない低下

（エ）エネルギー価格及び食料品価格の高騰

事業所数 11事業所

- ・特別養護老人ホーム 2事業所、併設型短期入所生活介護 1事業所
- ・通所介護事業 2事業所
- ・認知症対応型通所介護事業 1事業所
- ・訪問介護事業 1事業所
- ・居宅介護支援事業 2事業所
- ・地域包括支援センター 1事業所
- ・サービス付高齢者向け住宅 1事業所
- ・定期巡回随時対応型訪問介護看護事業所 1事業所

職員数 212名 (令和5年度正規職員 採用者数23名／退職者数23名)

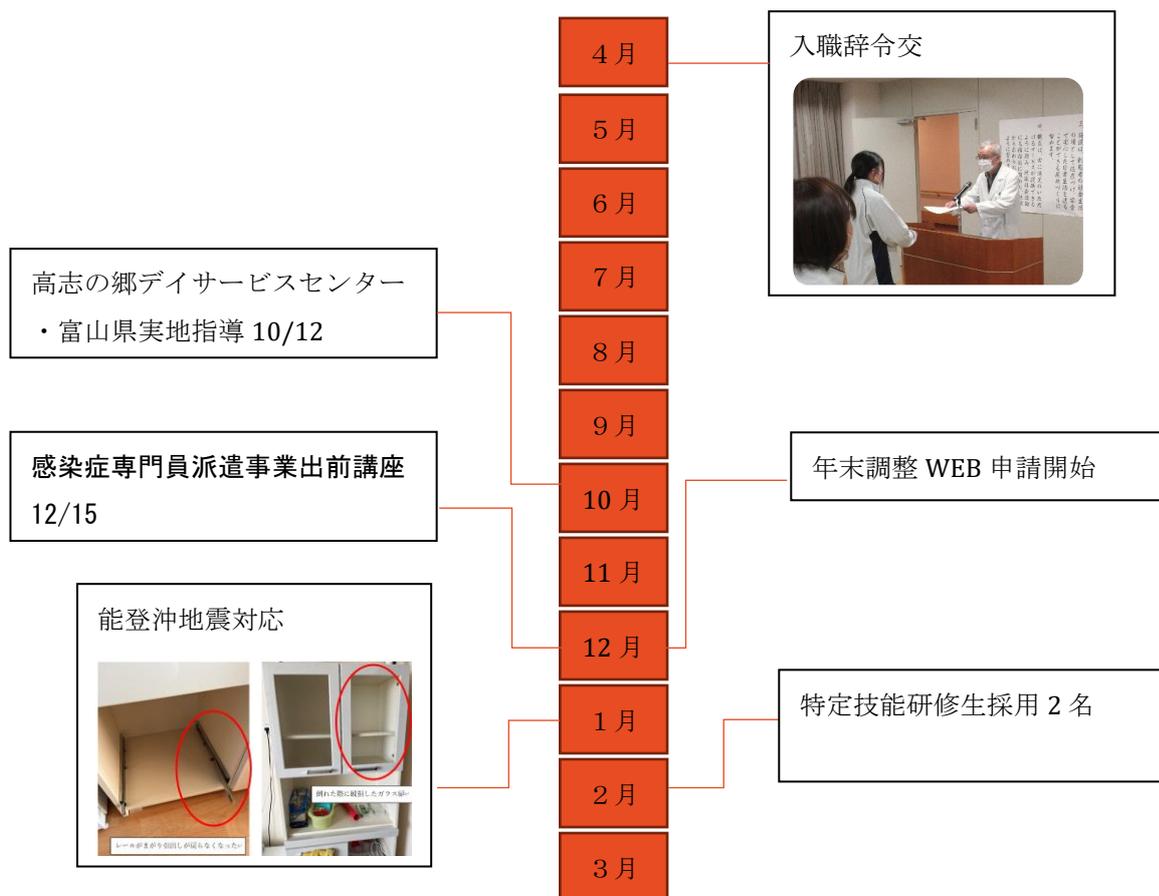
男女比 1：3

平均勤続年数／平均年齢 10年5カ月／47.1歳 令和6年3月末現在

基本理念

- ・ 高齢者の生活と人権を尊重し、公正で開かれた施設運営に努めます。
- ・ 高齢者が地域で安心して生活を送ることができる拠点施設となるように努めます。
- ・ 施設は、利用者の社会生活の場として位置づけ、安全で安心した日常生活を送ることができる環境づくりに努めます。
- ・ 職員は、常に満足のいただけるサービスが提供できるように励み、地域社会活動にも積極的に関わり、地域から求められる施設となるように努めます。

活動状況



・主な活動ポイント

- 法人内研修の充実。年間を通して法人内研修を開催。
19項目の研修を延べ68日間実施し、延べ791人の職員が参加した。
自己啓発研修費貸与制度を利用した職員は 1名。
- 高志の郷デイサービスセンター 富山県より実地指導あり対応10月12日
- 感染症専門員派遣事業出前講座（12月15日）を受け入れ、施設内の巡視及び助言・指導をもらった。
- 事務手続き等の効率化のため、年末調整・給与明細のWEB化。
- 1月1日 能登沖地震により、高志の郷建物および備品等に被害があった。
- 2月1日から特定技能研修生ミャンマー人を2名雇用。

4月

5月

6月

7月

8月

9月

10月

11月

12月

1月

2月

3月

高校生バスツアー8/4



小学生親子バスツアー



・主な活動ポイント

○夏まつり開催 8月20日(日)14時~16時

入居者・家族を対象とした夏まつりを日中に開催した。

久々のイベントに入居者・家族ともに笑顔で過ごしてもらうことができた。

感染対策の為、地域等の交流は無しとなった。今後も検討必要。

○8月4日高校生バスツアー対応

3名参加希望あり対応。

○8月18日小学生親子バスツアー対応

9組18名参加

特別養護老人ホーム鳳鳴苑

ユニット型特別養護老人ホーム鳳鳴苑

< 事業概況 >

○入居者数 従来型 69名・ユニット型 59名（令和6年3月31日現在）

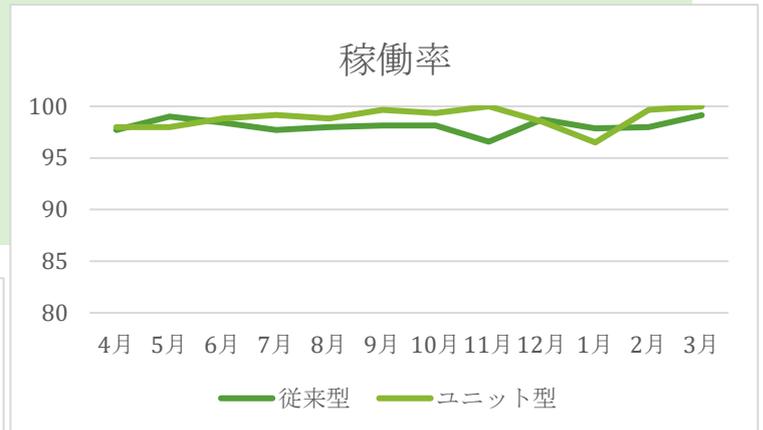
○年間稼働率 98.4%

○年間看取り者数 20名

○年間平均介護度 4.1

○年間平均年齢 88.6歳

○男性：女性 28名：100名



< 活動状況 >

サービス向上

- ◇ コロナ過で居室での面会を中止していたが、令和5年6月20日より条件をつけて再開した。何度かコロナ感染等による一部制限はあったが、ほとんどの期間を面会実施できている。また、面会を再開したことで、入居者様の笑顔も増えている。
- ◇ 11月におやつバイキング実施した。久しぶりの開催で喜んでいただけた。
- ◇ 看取り介護者に最後まで安心して生活してもらえるよう感染対策のもと、家族と共にケアの継続に努めた。

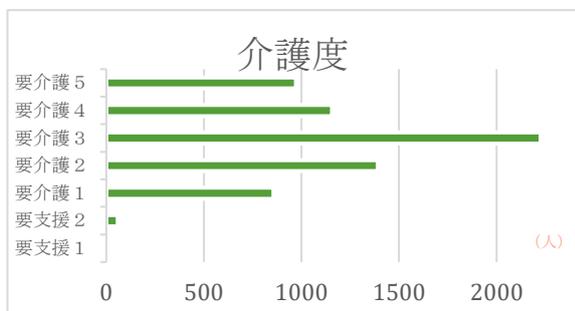
業務改善

- ◇ 日々の健康観察を密に行い、入院の減少、入退所の速やかな対応を心掛けた。入所判定委員会を毎月開催することで臨機応変に対応できるようになった。
- ◇ 排泄用品の見直しを実施し、適正な使用方法を勉強会で改めて周知した。尿量チェックを行うなど随時、使用する品の適正化、交換回数を見直ししている。
- ◇ コロナ感染による隔離期間があり、感染対応について実地での経験を活かして対応した。発生したユニットの職員から発信し、実際の対応方法・使用した物品について再検討を行った。食事提供の仕方についても効率的に栄養が摂取できるような対応を行った。

特別養護老人ホーム鳳鳴苑 併設型短期入所生活介護（ショートステイ）

< 事業概況 > 定員 21 名

- 定員数 多床室 6 名・個室 15 名
- 年間稼働率 94.2%
- 年間延利用者数 7,251 名
- 年間平均介護度 3.1
- 1日平均利用者数 19.8 人



< 活動状況 >

サービス向上

- ◇ 利用者及びご家族の意向を確認しながら進めてきた。連絡の行き違いが発生することもあり、その都度丁寧に対応した。
- ◇ 急遽の利用を受け入れるなど柔軟に対応したことで、稼働率が維持できた。
- ◇ 利用者及びご家族の意向確認は随時行っている。

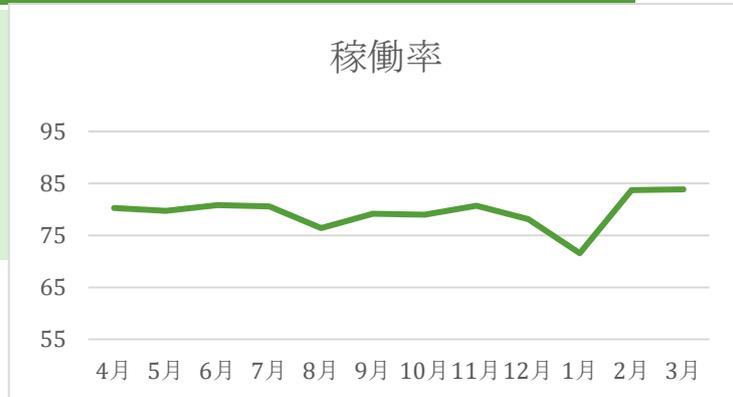
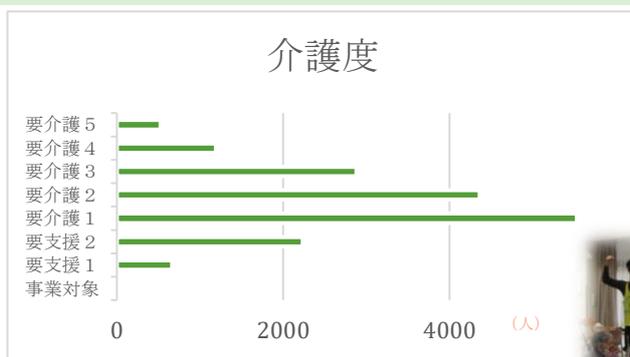
業務改善

- ◇ 利用者及びご家族等に随時確認しながら対応している。荷物チェック業務効率化のため、アプリを導入した。記録漏れが減り、効率が上がっている。
- ◇ 感染時の対応方法を統一し、大きな感染拡大もなく運営できている。他機関とも密に連携しながら対応している。
- ◇ 空床情報を定期的に発信および事業所へ持参し、次の利用につなげている。また、利用状況の変化に応じて家族、ケアマネ、他事業所・医療機関に情報提供を行っている。
- ◇ 受け入れ時に確認漏れがあり、苦情につながるケースがあった。利用者によって確認する事柄が違うため、注意が必要。

鳳鳴苑デイサービスセンター 通所介護事業所

< 事業概況 >

- 定員数 70名
- 年間稼働率 78.4%
- 年間延利用者数 17,004名
- 年間平均介護度 1.8
- 1日平均利用者数 54.9人



< 活動状況 >

サービス向上

- ◇ 感染対策をしながら、季節に合わせたドライブやカラオケの再開、密を避けながら体操・制作活動等利用者が好きな活動を選んで取り組めるように工夫した。
- ◇ 事業の方を中心に半日利用（リハビリ・入浴・食事・13時半頃送迎）のサービスを提案し、利用者のニーズに合わせるように努めた。
- ◇ 入浴は、その日の体調に（特浴・チェア・一般）あわせ変更できるように対応した。特浴のある事業所としてパンフレットに改めて記載し、居宅支援事業所にアピールを行った。
- ◇

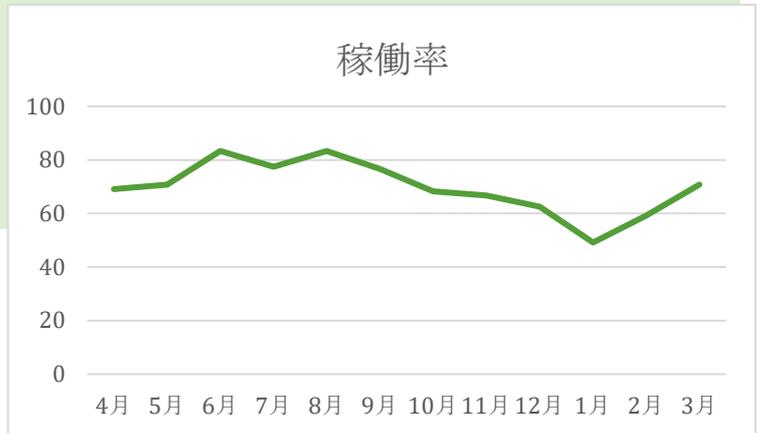
業務改善

- ◇ 報告・相談・連絡がうまく伝わってないことも見られた。専従の生活相談員の役割を変更し、連携がスムーズの行くように生活相談員と管理者で毎日申し送りをする時間を作り情報共有が出来るように努めた。
- ◇ 朝の送迎時体調確認を行うことや体調不良者がみられた場合は素早く個別対応し、早めの受診を家族に依頼し、感染拡大の予防に努めた。
- ◇ 更なる加算について、科学的介護推進体制加算、機能訓練加算Ⅱを新たに取得した。自宅訪問の機会を増やし（担当者会議等）、生活機能チェックシートを活用して住宅環境を確認していくことも行った。総合事業対象者も科学的介護推進体制加算も取得した。

鳳鳴苑デイサービスセンターえがお 認知症対応型通所介護事業所

< 事業概況 >

- 定員数 12名
- 年間稼働率 70.0%
- 年間延利用者数 2,621名
- 年間平均介護度 3.1
- 1日平均利用者数 8.4人



< 活動状況 >

サービス向上

- ◇ 利用者様の個々の状態の把握、ご家族様の要望等に柔軟に対応し、個性を重視したサービスを提供する事ができた。また、送迎範囲や個々のサービス提供時間に柔軟に対応できた。特に令和5年7月には送迎車両が一台増えた事もあり、送迎範囲の拡大及びより一層柔軟に対応する事ができた。
- ◇ 認知症の方を理解しようという気持ちは強くあるも、症状から導き出される行動からその意味まで考える事ができない職員が昨年同様に見られる事から、職員全員が認知症の方を理解し統一したケアに繋げる事ができなかった。また、そういった職員の為にも統一したケアが行えるよう会議等で周知を行ったが、その日その日の利用者様の状況、状態が変化する為からか効果が見られなかった。

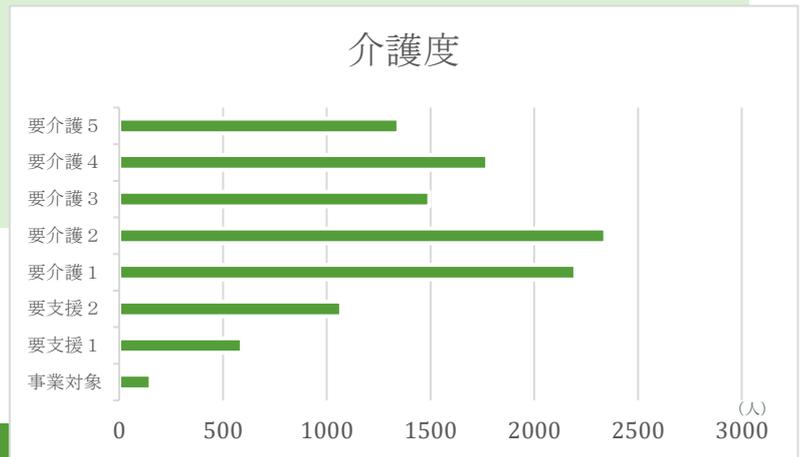
業務改善

- ◇ 1日の利用者数は7~8人だった。年度始め当初は新規利用者数や利用回数の増加などあり好調な滑り出しであったが、秋頃より入院・施設入所・状態変化に伴う事業所変更などで利用終了者が多く利用者数の激減がみられた。
- ◇ 営業活動については、当初月2回の営業活動を目指していたが、月1回の営業活動を行う事しかできなかった。しかし、普段送迎を行っているエリア以外の地域事業所へも営業活動を行った。
- ◇ 法人内デイサービス（事業所3ヶ所）での連携を図り、情報共有に努める事ができたが、認知症状が強い方に対し、事業所移行を検討する場を設ける事に繋がらなかった。

鳳鳴苑デイサービスセンター 訪問介護事業所

< 事業概況 >

- 年間延利用者数 10,979名
 - 身体介護延利用者数 5,537名
 - 生活援助延利用者数 2,728名
 - 折衷型介護延利用者数 832名
 - その他 1,882名
- 年間平均介護度 2.4
- 平均利用回数 30.0人



< 活動状況 >

サービス向上

- ◇ 利用者の自立を促し、共に行う生活援助の提案や自立を促す関わりを意識する等、より生きがいを持って在宅での生活を送ることが出来るよう支援を行った。
- ◇ サービス提供時の状況確認や報告を密にし、チームでムラなくサービスが提供できるよう努めた。
- ◇ 職員、利用者の体調確認を行い、ケアマネや家族との情報共有、連携のもと事業所内での感染予防に努めた。
- ◇ 訪問介護のスキルや、仕事に対するやりがいを持てるよう、積極的に外部研修に参加し定着促進に努めた。
- ◇ 総合事業の利用者の場合でも、入浴の見守りが必要なケース等積極的に独自サービスの利用を勧めた。

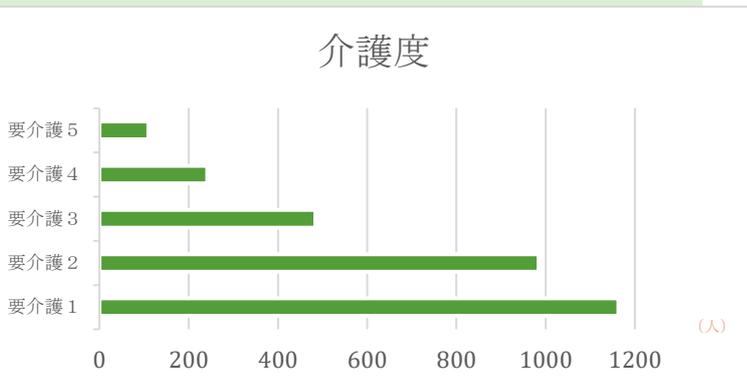
業務改善

- ◇ 利用者の状態変化に合わせ、追加訪問を提案しています。また、利用者、ケアマネからの緊急的な訪問希望にもその都度対応した。

鳳鳴苑在宅介護支援センター 居宅介護支援事業所

< 事業概況 >

- 年間ケアプラン作成件数 2,903件
- 月間一人当たり作成件数 30.2件
- 年間認定調査件数 156件



< 活動状況 >

サービス向上

- ◇ 年度の上半期までは、順調に拠点から近い地域の利用者をはじめ、当法人の在宅サービスを希望される利用者を中心に、柔軟に受け入れた。
- ◇ 下半期より介護支援専門員の員数の減少に伴い、新規受け入れを中止することとなり、やむを得ず給付件数を減らすことになった。
- ◇ 同法人居宅介護支援事業所とは切れ目ない相互連携に努めた。
- ◇ ケアマネ全体会議を通じて、事業所全体のケアマネマネジメントスキル向上に努めた。また、ICTの活用を積極的に推進し、当法人で導入しているシステムの活用他、高岡市が推奨する医療介護の連携システムであるバイタルリンクの活用や音声入力システムを導入。ペーパーレスや業務の効率化を図り、多職種連携の手段が広がった。
- ◇ ターミナルケアマネジメント加算算定事業所の登録をしているが、新規ターミナル利用者の獲得はできなかった。既存利用者のターミナル期には、関連機関との連携を心がけることができた。また、通院時情報連携加算や入院時情報連携加算、退院・退所加算を積極的に算定することができた。

業務改善

- ◇ 特定事業所加算Ⅱが継続できるよう、週1回以上の会議開催、24時間連絡体制の確立（携帯）、実習生の受け入れ等を行い、算定要件を遵守した。
- ◇ 感染症や災害が発生した場合であっても業務が継続できるよう、法人内の関係委員会へ積極的に参加した。BCP等指針内容の推敲や関係する委員会へ参加し、シミュレーション（机上訓練）を実施した。

木津・福田・佐野・二塚地域包括支援センター

< 事業概況 >

- 年間相談件数 2,981件
- 1日平均件数 9.3件

< 活動状況 >

サービス向上

- ◇ 令和5年度の目標に沿い、地域包括ケアシステムの構築を推進する為、地域や関係機関との連携強化・充実を目指し、以下の3項目について取り組んだ。
- ◇ 「通いの場」を活用した介護予防事業の推進
- ◇ 認知症バリアフリーの推進と早期発見・早期対応の強化
- ◇ 住民が支えあう地域づくりの推進

推進事業

高岡市の委託を受け、以下の事業を行った。

- ◇ 包括的支援事業
地域包括支援センター運営事業・在宅医療/介護連携推進業務・認知症地域サポート事業
地域ネットワーク構築事業
- ◇ 生活支援体制整備事業
高齢者が多様な生活支援・介護サービスが利用できるような地域づくりを目指し取り組んだ。
- ◇ 地域ケア会議推進事業
地域ケア会議開催 年10回
- ◇ 介護予防・日常生活支援総合事業
介護予防ケアマネジメント事業・一般介護予防事業・地域における介護予防活動支援

サービス付高齢者向け住宅高志の郷

< 事業概況 >

○居室数 45室

○令和6年3月末時点

入居数47人 45室（空0室）



< 活動状況 >

サービス向上

- ◇ 年間の入居率は93%となった。初夏から晩秋にかけて体調不良者が多く高志の郷内での生活が難しくなり退去者が増加した。また入居希望者も減少し厳しい状況が続いたが、冬期に入り入居希望者も増え多くの方に入居していただき入居率は向上した。
- ◇ 林内科医院にご協力いただき、新型コロナワクチンの集団接種を行い入居者の感染予防に努めた。
- ◇ 入居者の検温、体調確認は継続。感染者増加にともない来館者の方にはより詳細に体調確認を実施し、館内での感染防止に努めた。入館者については若干緩和している。
- ◇ 現在提供中のサービスも浸透してきており安定してご利用頂いている。6月より新たに介護相談も始まりより充実した生活サポートを出来るように努めた。
- ◇ 令和6年1月1日発生 of 能登半島地震に際して、高志の郷職員、鳳鳴苑職員が協力し、入居者の人命を最優先として行動出来た。

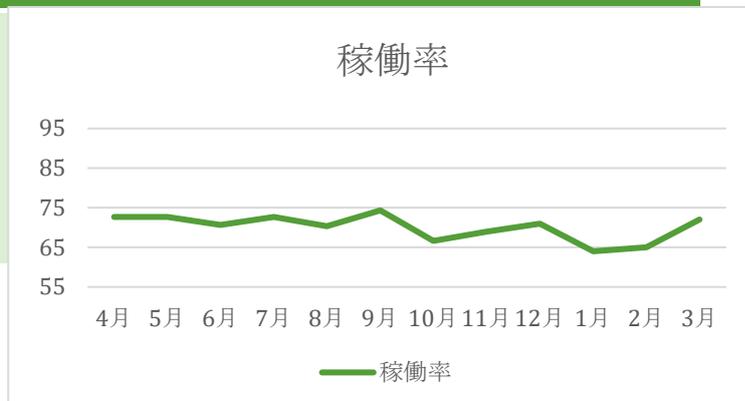
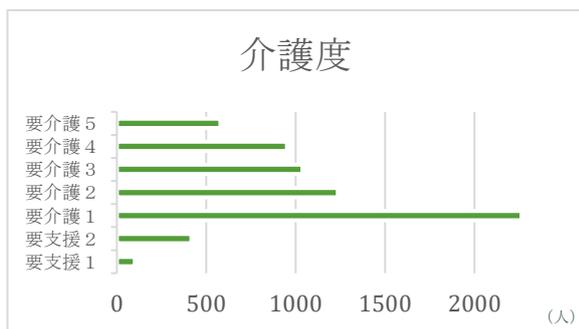
業務改善

- ◇ 開設より10年が経過し設備もところどころ劣化してきているので、定期的な点検等を実施し安全の確保に努めた。
- ◇ 火災訓練（夜間想定）を2回、水害訓練（デイ共同）を1回実施した。実施結果を踏まえ、マニュアルの修正などを行い非常に備えている。
- ◇ 自治会と今後の協力体制について意見交換を実施した。
- ◇ 節電や節水を心掛け、経費の削減に努めた。
- ◇ 居宅介護支援事業所や地域包括支援センター等への情報提供を行い、新規入居につなげた。

高志の郷デイサービスセンター

< 事業概況 >

- 定員 30名 営業日数 310日
- 年間稼働率 82.6%
- 年間延利用者数 7,712名
- 年間平均介護度 2.2
- 1日平均利用者数 24.8人



< 活動状況 >

サービス向上

- ◇ 稼働率は、4月から10月頃までは77~80%台を推移していたが、11月以降は90%以上を維持しており、利用者平均介護度も要介護2となっている。他の事業所で受け入れが難しい利用者こそ、受け入れていくスタンスは維持し、サービス利用継続に繋げることで、ケアマネジャーや家族からの信頼度向上に努めた。
- ◇ 1日2回の体温測定、送迎乗車時の手指消毒、定期的なフロア内の換気、マスク使用の徹底等を行い、感染防止対策を図っている。前年度に比べ感染症を原因とする利用休止はほぼなくなった。
- ◇ 機能訓練スペースと生活スペースの分けを行い、利用者にとって動きやすい機能訓練の場を提供している。利用者の事故をきっかけに平行棒の位置やベッドの角にクッション材を貼り、机の配置や物の置き場所を見直す等、利用者が容易に移動しやすいスペース確保を目指し、環境整備を図った。

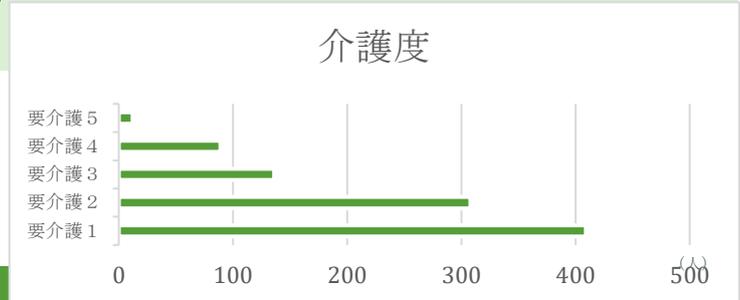
業務改善

- ◇ 定期的に各専門職が担当分野ごとに評価したサービス利用状況の評価を担当ケアマネジャーに書面にて提出している。また適宜、利用中に起こった利用者及び家族の変化を電話やFAXにて伝えるように心掛け、一方通行のサービス提供にならないよう担当ケアマネジャーの意見も聞きながら1件1件のケースに関わっている。
- ◇ 管理者が中心となり特に対応のバラツキが多い送迎介助方法のマニュアルを見直し、全介護職員でマニュアルの内容を確認し合った。職員数が多い介護職員は週3回程度ミーティングの時間を設け、ケア方法の見直しや意見交換を行いケアの統一を図っている。

高志の郷居宅介護支援事業所

< 事業概況 >

- 年間ケアプラン作成件数 941件
- 月間一人当たり作成件数 26.1件
- 年間認定調査件数 37件



< 活動状況 >

サービス向上

- ◇ 自立支援の視点を持ったケアプランを作成し、医療関係者ともこまめに連絡を取り合い、重度化防止に努めた。
- ◇ 感染症や災害が発生した場合であっても業務が継続できるよう、法人内の関係委員会へ参加し、必要に応じて関係研修への参加に努めた。
- ◇ 予防プランは、必要に応じて受託し、各地域包括支援センターとの連携を図るよう努めた。
- ◇ 研修に積極的に参加し、質の高いケアマネジメントを提供できるよう努めた

業務改善

- ◇ 地域包括支援センターや医療機関などから紹介を受け、積極的に担当するように努めました。サービス付き高齢者住宅に入居の方を担当する件数も増え、高志の郷内の事業所間での連携を図る機会が多かった。
- ◇ 今年度、介護支援専門員が1人増え、3人体制となり、当初稼働率については目標達成できない月が続いたが、9月より目標達成している。
- ◇ 令和5年5月より特定事業所加算Ⅲを算定。週一回以上の会議開催、研修計画の検討、24時間連絡体制の確立（携帯）等の体制を整え、研修に積極的に参加し、質の高いケアマネジメントを継続して提供できるよう努めた。

定期巡回にここ

定期巡回随時対応型訪問介護看護事業所

< 事業概況 >

- 年間延実利用者数 110名
稼働日数 366日
延べ利用回数 8464回
- 平均利用回数 3.3人

< 活動状況 >

サービス向上

- ◇ 開設から1年経過し、順調に対象となる契約者も増えている。
- ◇ 利用者の自立を促し、共に行う生活援助の提案や自立を促す関わりを意識する等、より生きがいを持って在宅での生活を送ることが出来るよう支援を行った。
- ◇ サービス提供時の状況確認や報告を密にし、チームでムラなくサービスが提供できるように努めていた。
- ◇ 職員、利用者の体調確認を行い、ケアマネや家族との情報共有、連携のもと事業所内での感染予防に努めた。
- ◇ サ高住入居者の内、現在12名の方が利用している。

業務改善

- ◇ 職員間での報・連・相を密にし、多職種との連携も強化してきた。